

## 第2章

## 子どもの読書活動をめぐる状況

## 1 アンケート調査からみられる状況

子どもの読書活動に関する市民の様々な意識やニーズを調査・把握しました。

## 「藤沢市子ども読書活動推進計画改定にかかるアンケート調査」の概要

## ・ 調査目的

令和8年度からの計画を改定するにあたり、子どもの読書活動に関する市民の様々な意識やニーズを調査・把握します。

## ・ 調査対象者・回収数

| 調査対象者                              | 回収数   |
|------------------------------------|-------|
| 小学2年生                              | 186   |
| 小学5年生                              | 431   |
| 中学2年生                              | 340   |
| 16～17歳                             | 232   |
| 保護者（幼児、小学2年生・5年生、<br>中学2年生、16～17歳） | 723   |
| 合計                                 | 1,912 |

## ・ 調査実施期間

- ①令和6年12月1日（日）0時から令和6年12月27日（金）23時59分まで
- ②令和7年9月8日（月）0時から令和7年10月30日（木）23時59分まで（追加実施）

## ・ 回答方法

- ①ハガキにe-kanagawaの回答フォームにつながる二次元コードを印字し、電子によるアンケート調査を実施
- ②メール配信ツールやアンケート調査票の配布・回収によるアンケート調査を実施

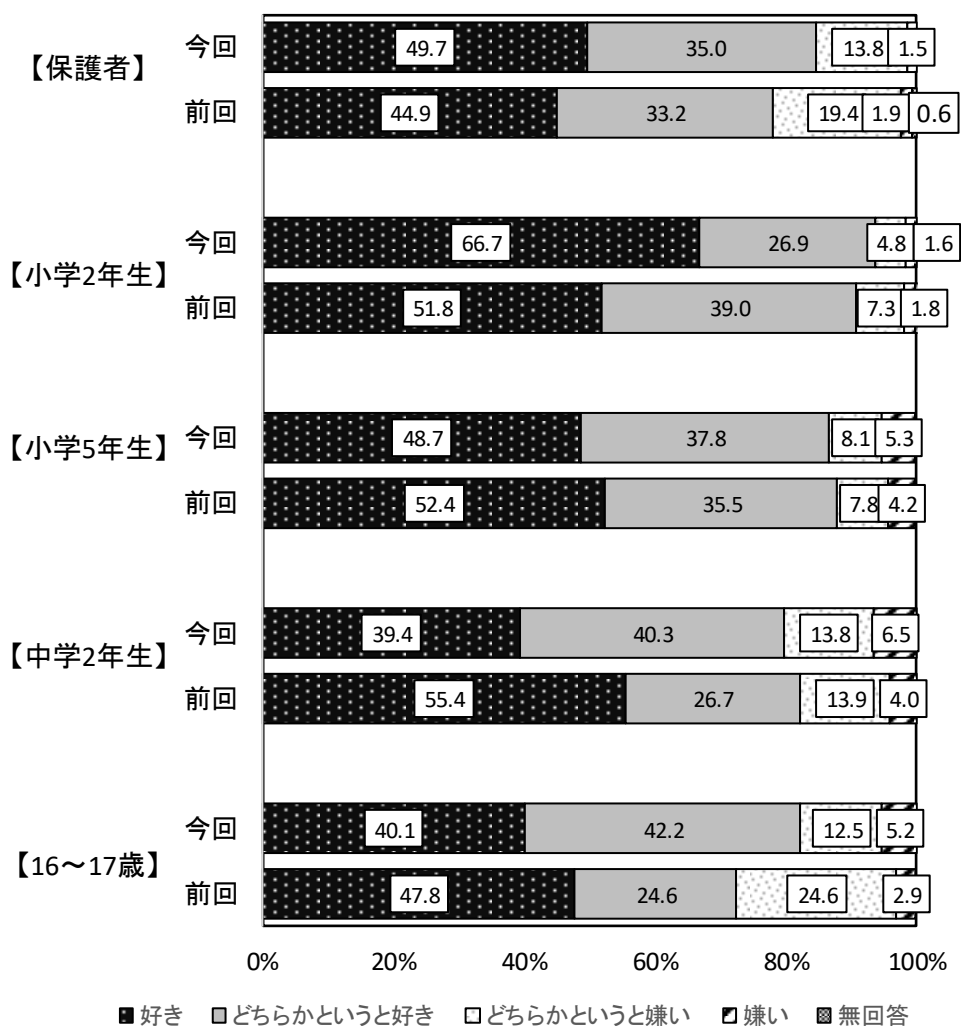
## ・ 調査項目

- ①日頃の読書の状況について
- ②地域の図書館について
- ③学校の図書館について
- ④「朝の読書」について
- ⑤子どもの読書活動の支援について

## (1) 日頃の読書状況について

### ・ 本を読むことの好き嫌い

本を読むことについて、「好き」「どちらかという好き」を合わせた好感度は、「保護者」が84.7%、「小学2年生」が93.6%、「小学5年生」が86.5%、「中学2年生」が79.7%、「16～17歳」が82.3%と、全体的に高くなっています。

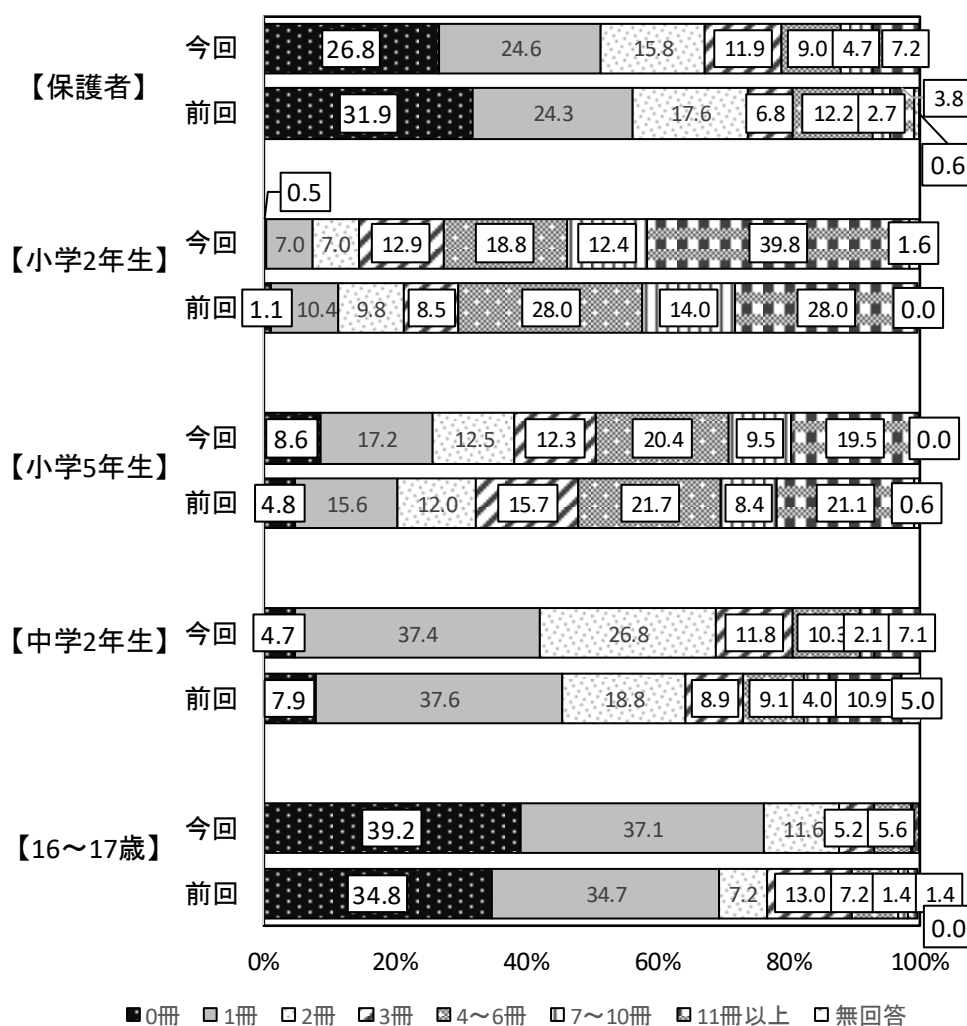


前は「令和元年度 藤沢市子ども読書活動推進計画改定にかかるアンケート調査報告書」（令和元年12月13日（金）から12月27日（金）まで実施）のデータです。



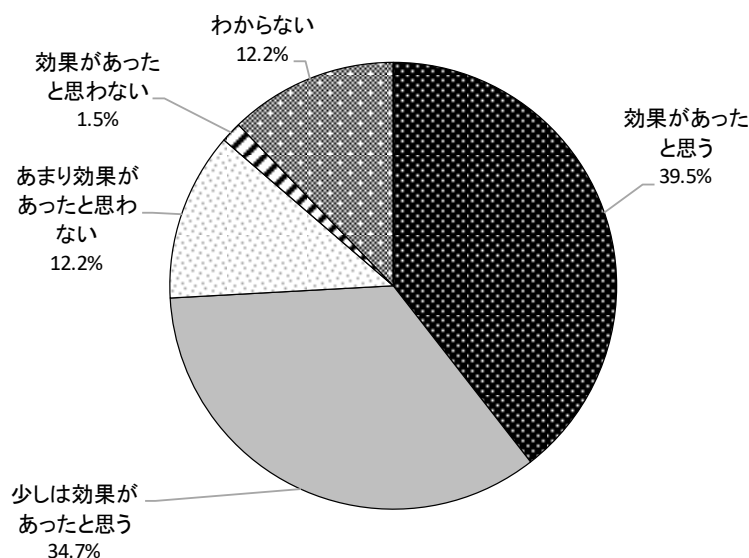
・ 先月読んだ本の冊数

先月読んだ本の冊数は、「保護者」と「16～17歳」では「0冊」と回答した割合が他の層と比べて高くなった一方で、「小学2年生」「小学5年生」「中学2年生」では1冊以上読んでいる割合が非常に高くなっています。



## ・ 読み聞かせの効果

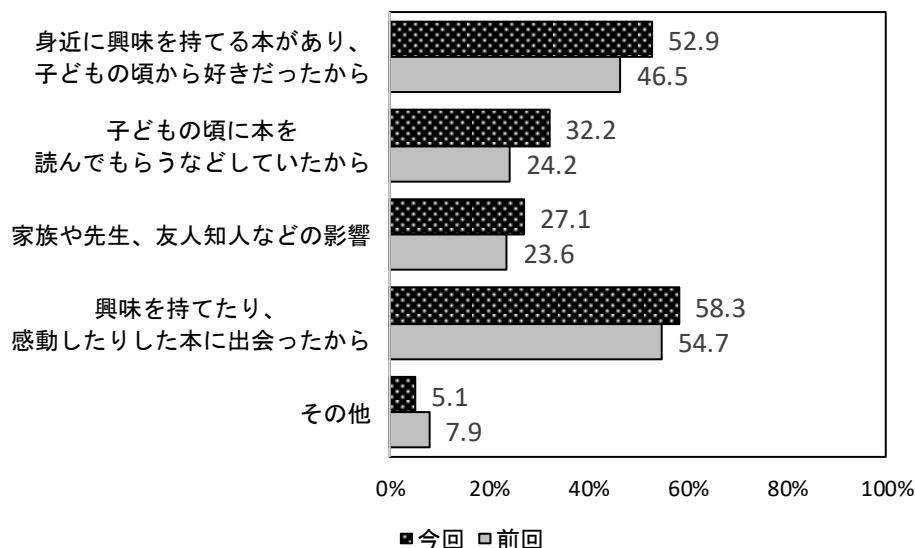
本の読み聞かせについて、「効果があったと思う」「少しは効果があったと思う」を合わせた割合は74.2%となっており、自分の子どもへの読み聞かせ経験者の大半が読み聞かせの効果を実感しています。



## ・ 本を好きになったきっかけ

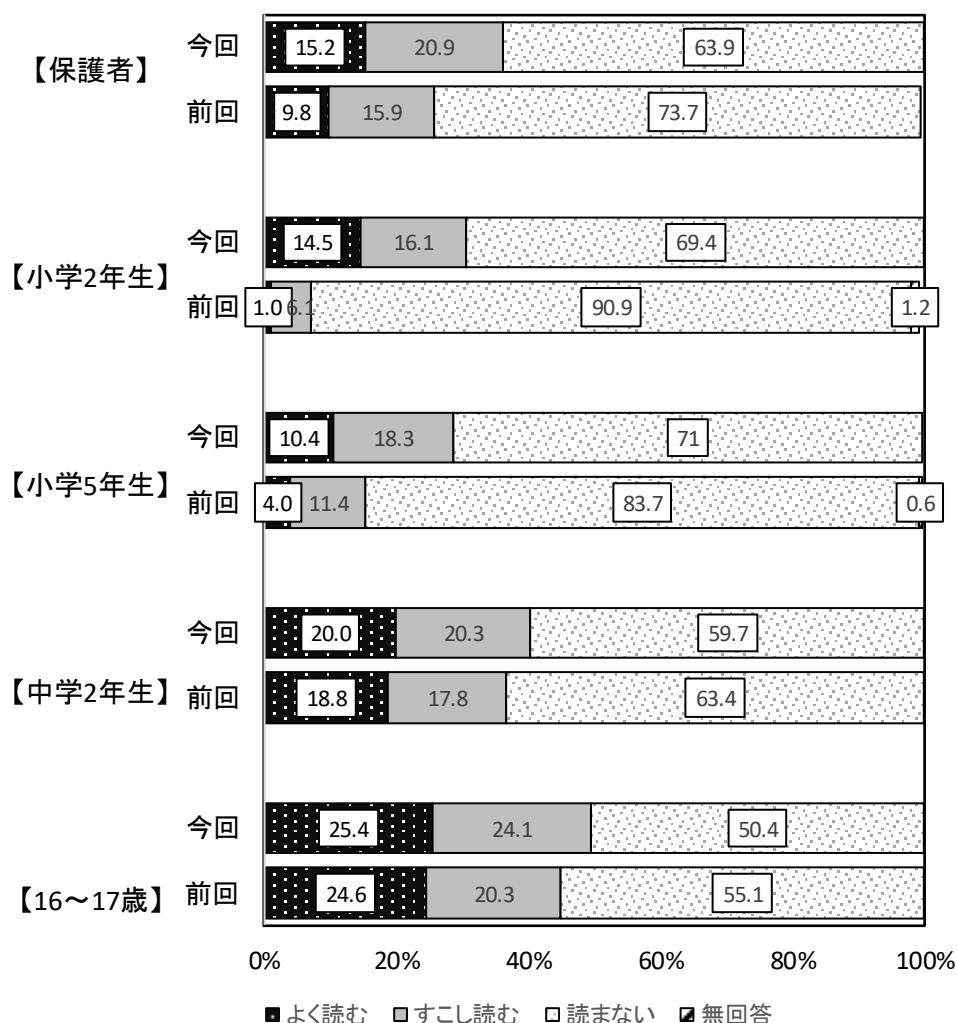
本を読むことが「好き」または「どちらかというとき好き」との回答者（「保護者」）に、本を好きになったきっかけ・理由をきいたところ、「興味を持てたり、感動したりした本に出会ったから」（58.3%）が最も高く、次いで「身近に興味を持てる本があり、子どもの頃から好きだったから」（52.9%）、「子どもの頃に本を読んでもらうなどしていたから」（32.2%）となっています。

「子どもの頃に本を読んでもらうなどしていたから」が前回より8%程増えています。



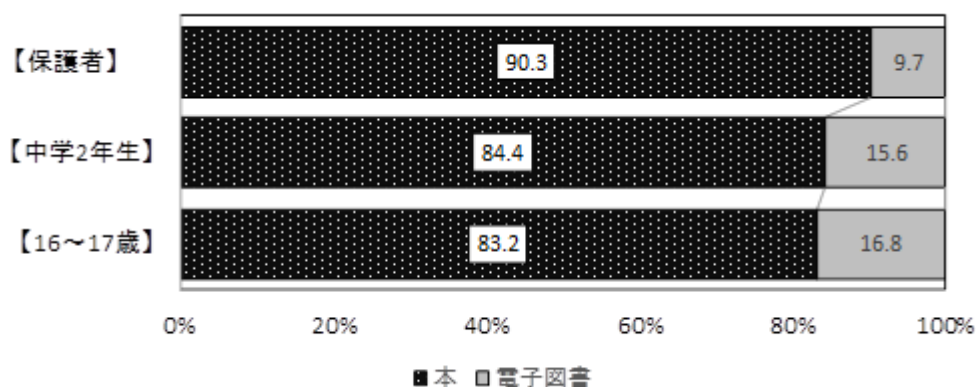
### ・ 電子書籍について

電子書籍を読むかどうかについて、「よく読む」「すこし読む」を合わせた割合は、前回調査に比べて全ての層で増加しており、特に「小学5年生」で割合が増加しました。



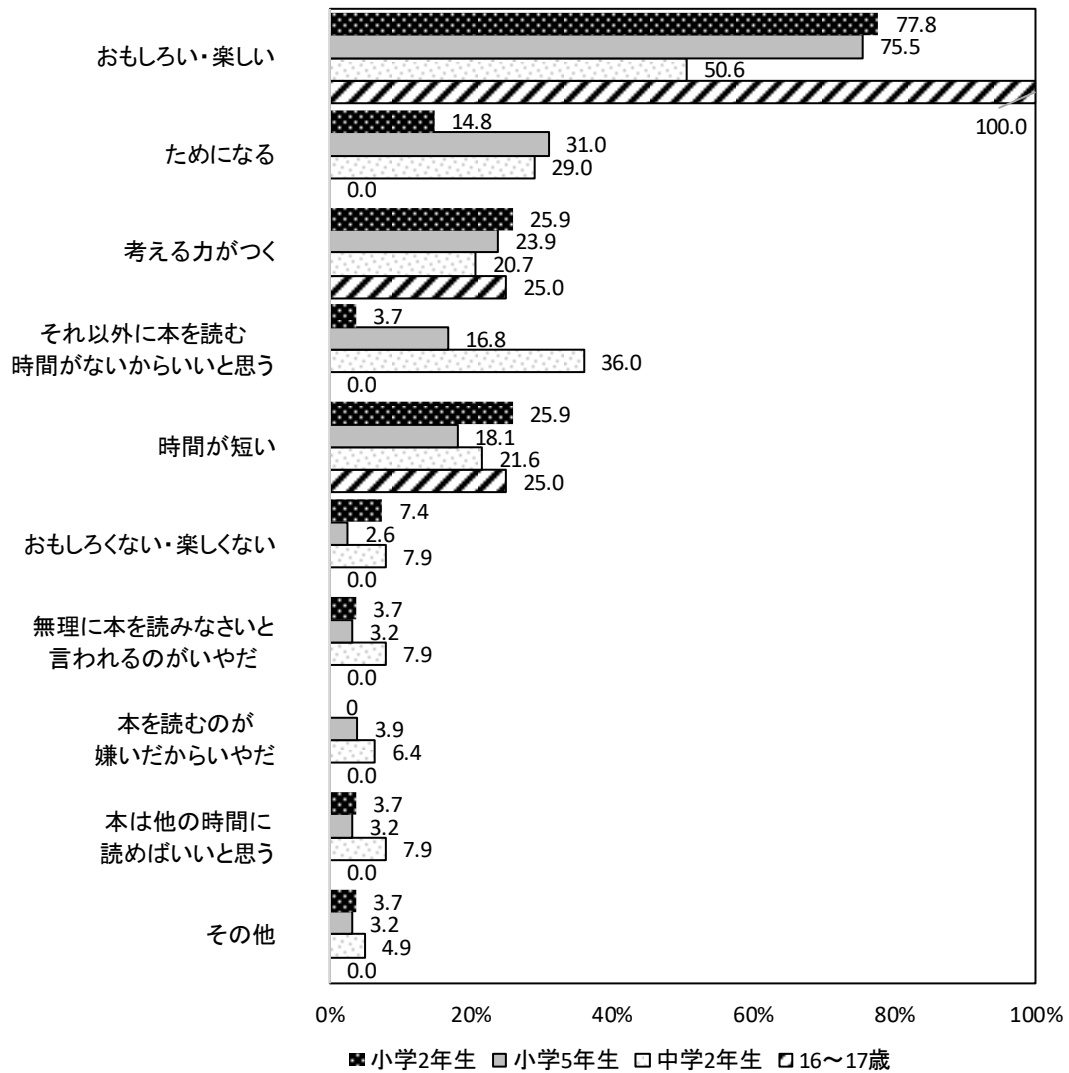
### ・ 本・電子図書の選択について

本を読みたい時、本又は電子図書のどちらを選んでいるかについて、いずれの層でも「本」の回答が多く、インターネットが身近になった現在でも、本を読みたい時に電子図書を選択する割合は低いことがわかりました。



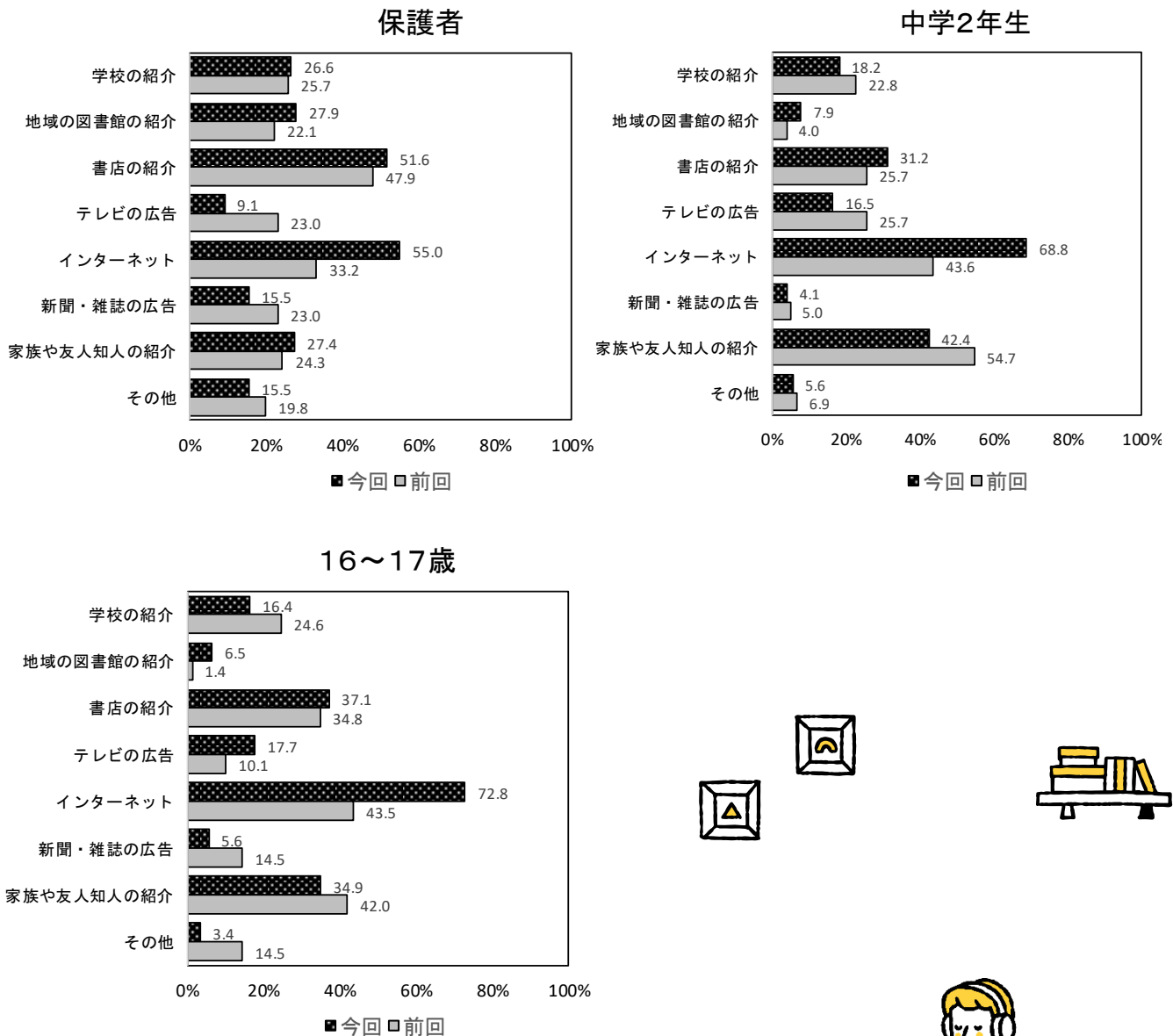
・「朝の読書」について

「朝の読書」が「ある」との回答者に対して感想を聞いたところ、いずれの層でも「おもしろい、楽しい」が最も高くなっています。



・ 本の情報の入手方法

「保護者」には子どもに与える本の情報入手方法を、「中学2年生」と「16～17歳」には自分が読む本の情報入手方法を尋ねたところ、全ての層で前回調査と比較して「インターネット」から本の情報を入手する割合が増えました。「保護者」と「16～17歳」では「書店の紹介」、「中学2年生」では「家族や友人知人の紹介」も高い割合を占めました。



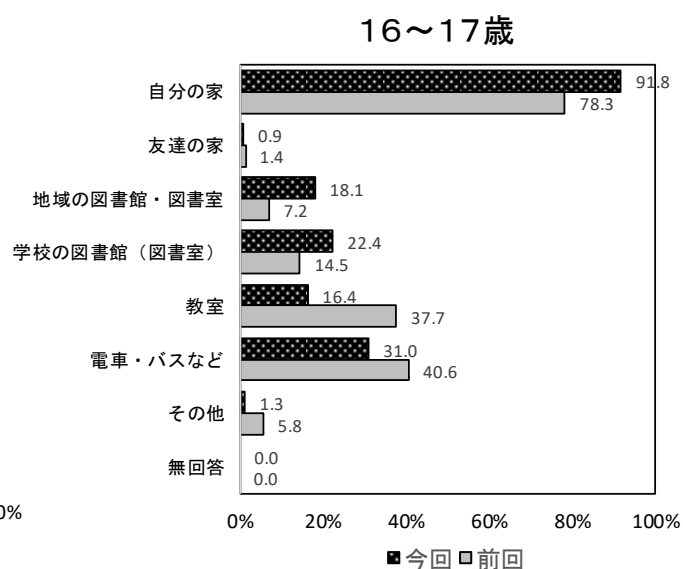
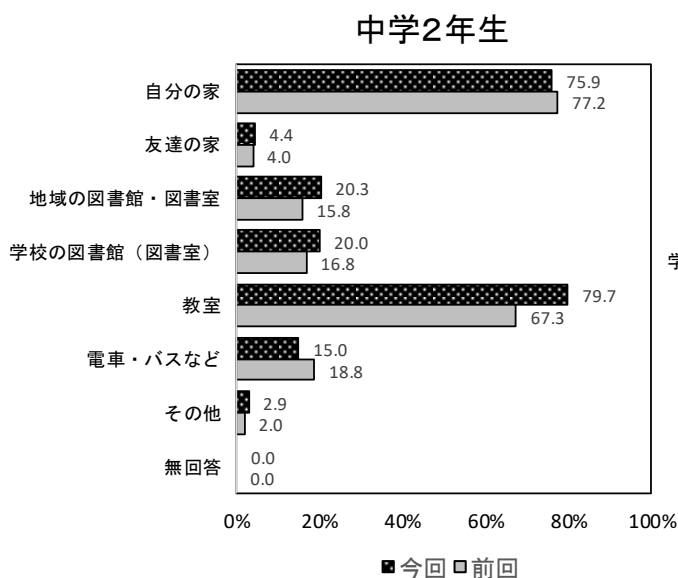
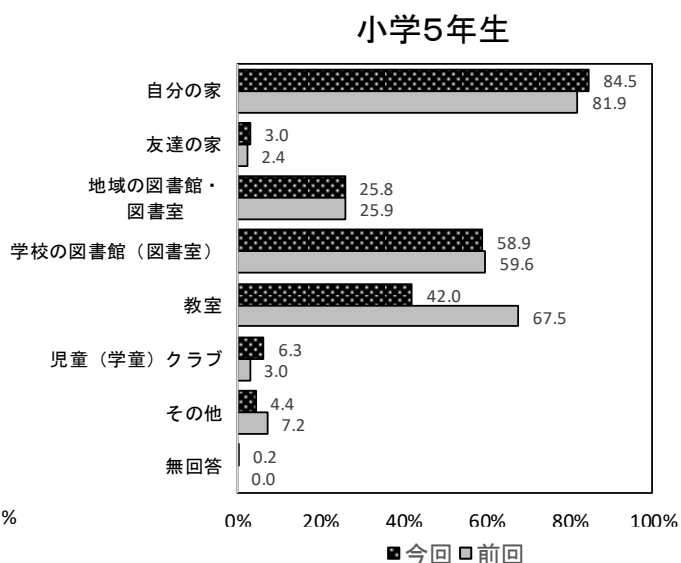
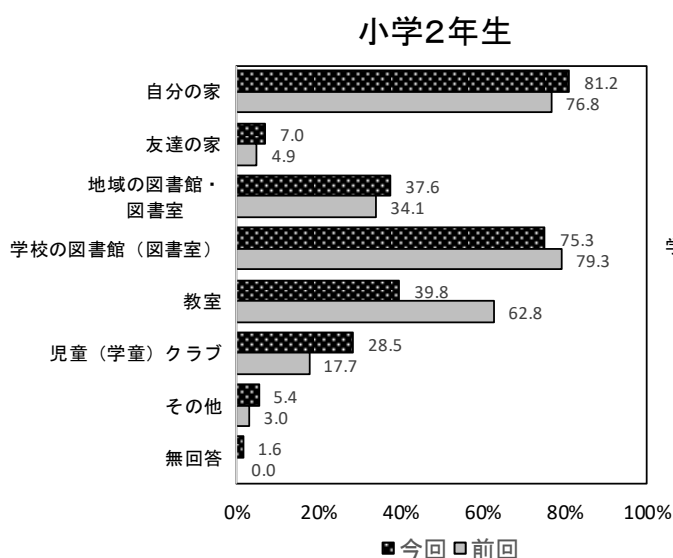
## (2) 読書をする環境について

### ・ 本を読む場所

本を読む場所については、全ての層で「自分の家」が最も高くなりました。

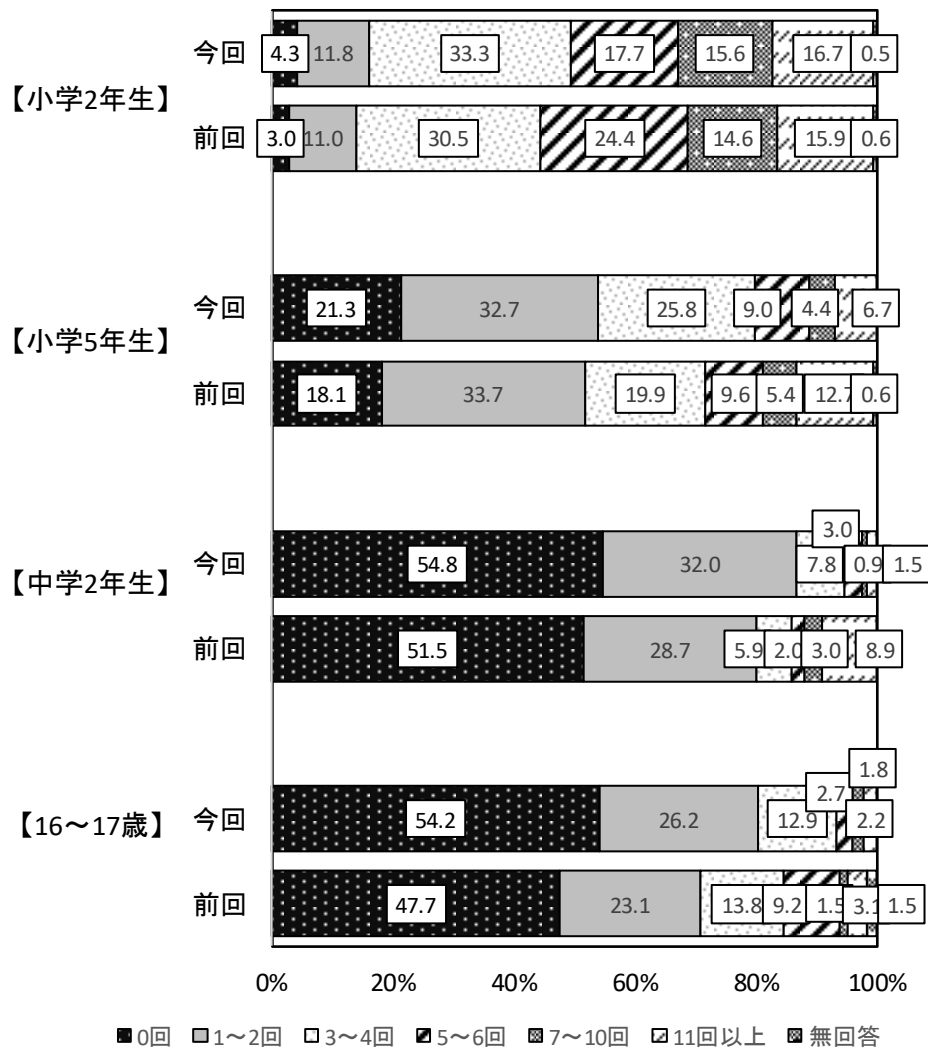
また、「学校の図書館」は「小学2年生」は75.3%、「小学5年生」は58.9%と、前回同様高い割合を占めました。「教室」は「小学5年生」が前回から25.5%減少しました。

「地域の図書館・図書室」については、「小学2年生」、「小学5年生」では約3割が本を読む場所として挙げています。



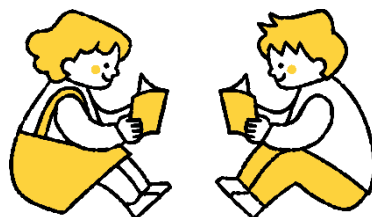
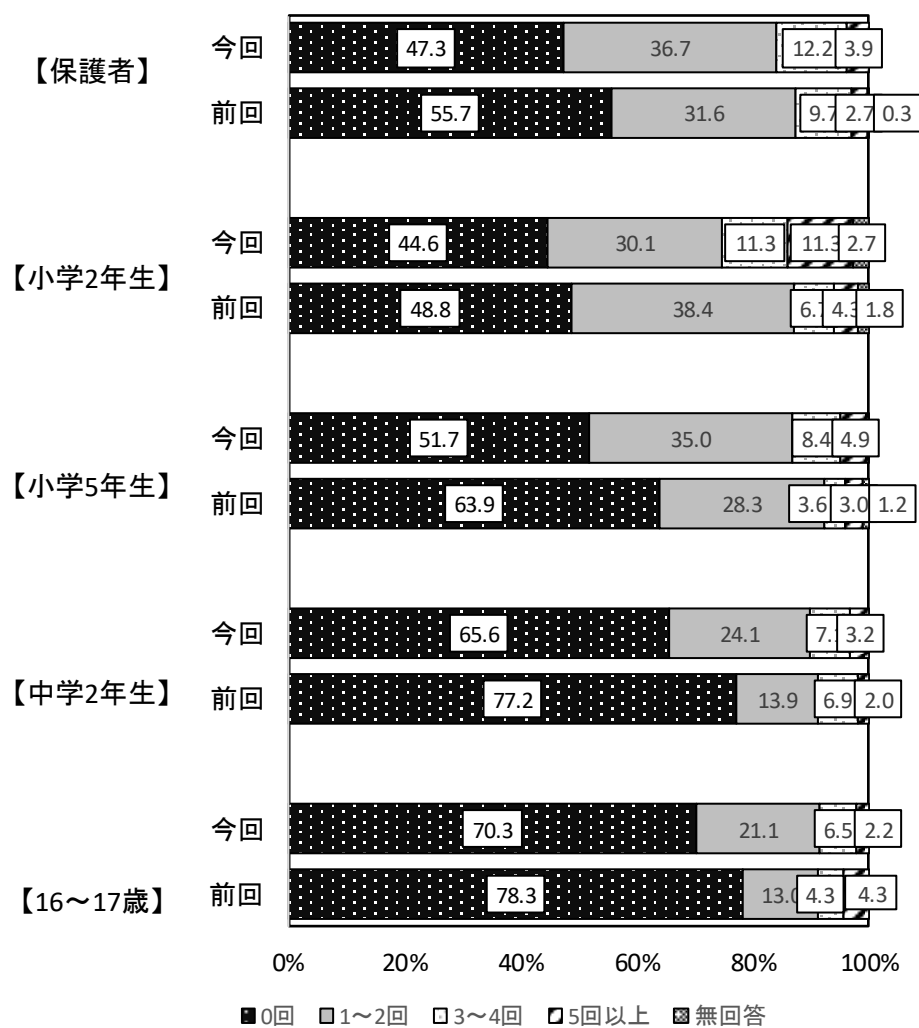
・ 先月学校の図書館（図書室）に行った回数

先月1か月に学校の図書館（図書室）に行った回数について、「0回」と答えた割合は、「小学2年生」では4.3%と非常に低くなっていますが、「中学2年生」では54.8%にまで上がっています。



・ 先月地域の図書館・図書室に行った回数

先月1か月に地域の図書館・図書室に1回以上行った割合は、全ての層において「0回」の占める割合が高いものの、前回に比べ、全ての層でその割合は減少しています。

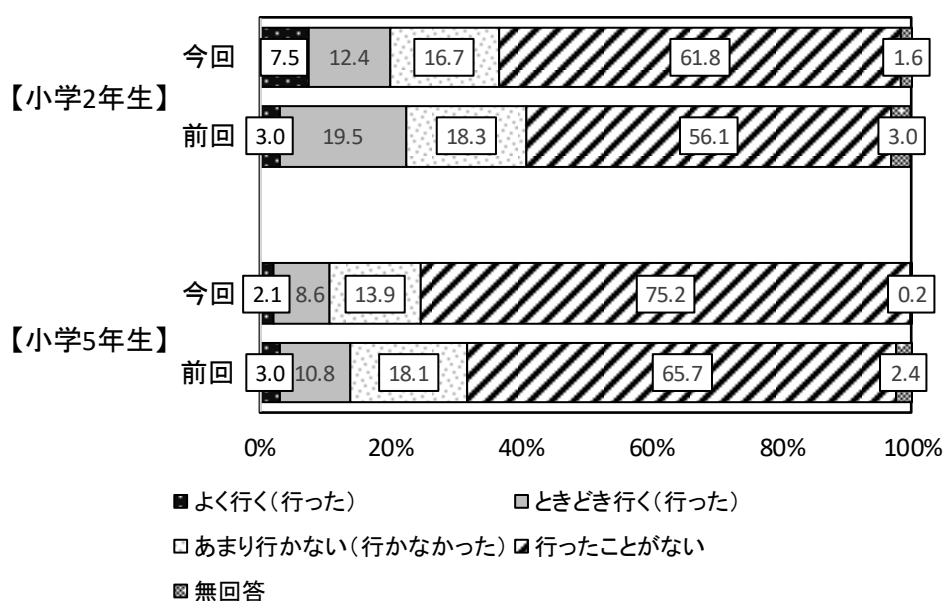


### (3) 子どもの読書活動の支援について

#### ・「おはなし会」への参加状況

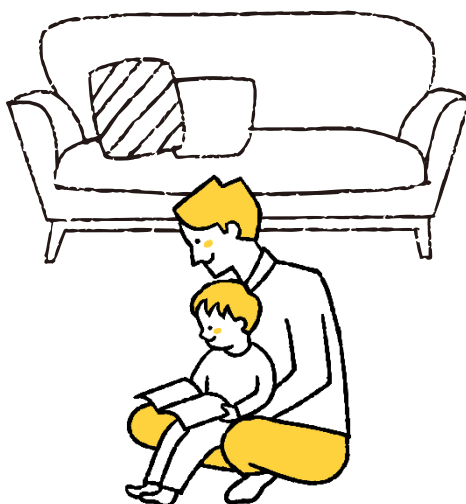
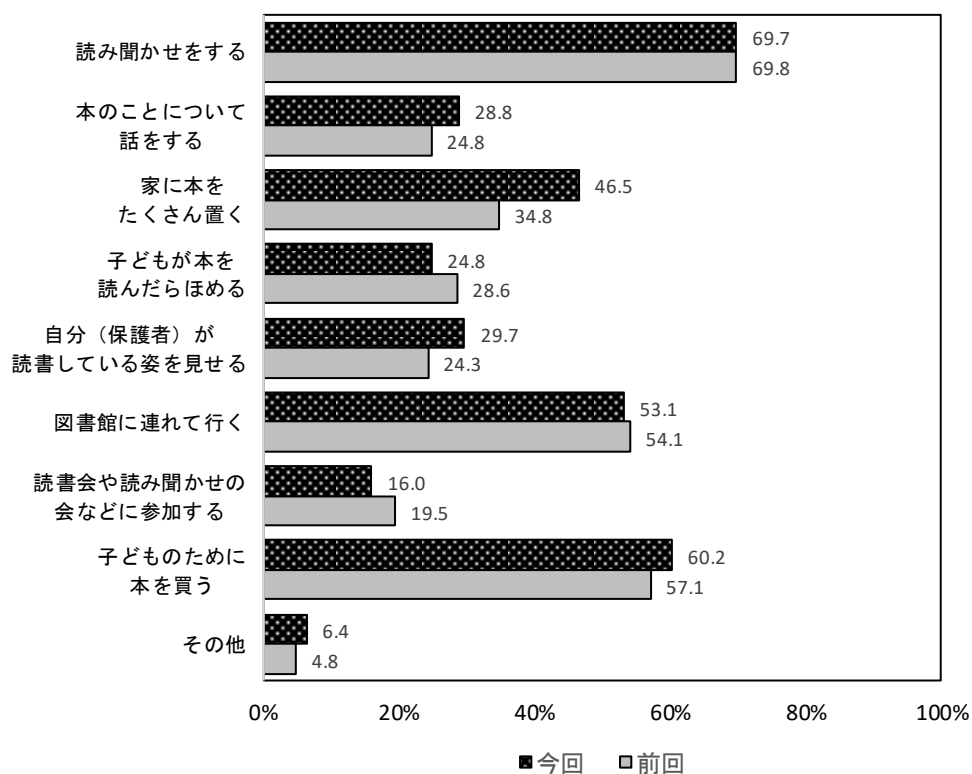
地域の図書館・図書室でやっている「おはなし会」への参加状況については、「小学2年生」では36.6%、「小学5年生」では24.6%が参加したことがありました。

また、「よく行く（行った）」「ときどき行く（行った）」を合わせた割合を高リピート層とした場合、高リピート層の割合は「小学2年生」が19.9%、「小学5年生」は10.7%であり、前回調査と比較すると、どちらの層でもやや減少しました。



・ 読書活動推進のためにしていること

保護者が、子どもの読書活動を推進するためにしている（していた）こととしては、「読み聞かせをする」（69.7%）が最も高く、次いで「子どものための本を買う」（60.2%）、「図書館に連れて行く」（53.1%）となっており、前回から大きな変化はありませんでした。



## 2 第4次計画における取組の評価

第4次計画の計画期間終了にあたり、令和6年度までの取組実績及び課題等について担当課及び策定委員会・作業部会において評価を行い、総合的に判定した評価結果は次のとおりです。

### 評価

- |           |            |
|-----------|------------|
| A 計画以上に推進 | B 計画どおりに実施 |
| C 計画に到達せず | D 未実施      |

### 第4次計画の評価

| 目標1 すべての子どもを「読書」の楽しさへ誘う        | 評価 |
|--------------------------------|----|
| (1) 乳幼児期における読書活動の支援            |    |
| 1) ブックスタート※5事業の推進              |    |
| 1 ブックスタート事業                    | B  |
| 2) 各種保健事業との連携推進                |    |
| 2 各種保健事業との連携                   | B  |
| 3) 読書に関心をもつ機会や相談機会の充実          |    |
| 3 母子手帳交付時等における子どもの読書活動啓発事業     | B  |
| 4 子育て支援事業における子どもの読書活動に関する機会提供  |    |
| 5 地域の図書館・図書室における読書相談           |    |
| 6 幼稚園・保育所等における子どもの読書活動に関する機会提供 |    |
| 4) 子どもの読書活動に対する理解の深化           |    |
| 7 地域の子どもに関わる施設・団体等との連携         | B  |
| 8 子どもの読書活動に関する講座・講演会事業         |    |
| 9 子育て応援事業等における子どもの読書活動啓発事業     |    |
| 10 子育て支援事業等の活用事業               |    |
| 11 幼稚園・保育所等を活用した子どもの読書活動啓発事業   |    |
| 12 インターネット等の活用による情報発信          |    |
| 5) 乳幼児が読書に親しむ機会の充実             |    |
| 13 地域の図書館・図書室におけるおはなし会         | B  |
| 14 様々な施設におけるおはなし会              |    |
| 15 幼稚園、保育所等における本と親しむ機会への取組     |    |
| 16 外出困難な乳幼児とその保護者への子ども読書活動支援事業 |    |
| 17 乳幼児向け資料整備                   |    |



※5 ブックスタート：すべての赤ちゃんと保護者が、絵本を介してゆっくり心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる活動のことです。1992年（平成4年）にイギリスのバーミンガムで始まり、日本では2000年（平成12年）の「子ども読書年」をきっかけに紹介され、現在では地域の子育て支援運動として各地に広がっています。本市では1歳6か月児健診終了後、ブックスタートコーナーで実際にスタッフが絵本を読んだり、子育て情報等を紹介し、おすすめの絵本1冊とブックリスト等が入った「ブックスタート・バック」を配付しています。

|                               |                                          |  |    |
|-------------------------------|------------------------------------------|--|----|
|                               | 6) 子どもの読書活動に関する保護者への支援                   |  | B  |
|                               | 18 保護者に対する情報提供 【拡充】                      |  |    |
|                               | 19 読み聞かせ体験の提供                            |  |    |
|                               | 20 子どもの本に関する保護者向け読書相談事業                  |  |    |
| (2) 小学生・中学生・高校生期※6における読書活動の支援 |                                          |  |    |
|                               | 7) 発達段階に応じたブックリストの充実                     |  | B  |
|                               | 21 ブックリストの活用事業                           |  |    |
|                               | 8) 様々な場で本と出会う機会の充実<br>① 小学生期 ② 中学生期・高校生期 |  | B  |
|                               | 22 資料の充実のための地域の図書館・図書室と学校の図書館（図書室）の連携事業  |  |    |
|                               | 23 子どもの居場所づくり事業との連携                      |  |    |
|                               | 24 発達段階に応じた本の紹介 【拡充】                     |  |    |
|                               | 25 地域の図書館・図書室での中学生・高校生等の受入               |  |    |
|                               | 26 地域の様々な施設における子どもの読書活動への支援              |  |    |
|                               | 9) 地域の図書館・図書室を知ってもらう機会の充実                |  | B  |
|                               | 27 地域の図書館・図書室PR事業                        |  |    |
|                               | 28 地域の図書館・図書室の資料による子どもの読書活動への支援          |  |    |
|                               | 29 地域の図書館・図書室の環境づくり                      |  |    |
|                               | 30 図書館に親しむための体験や情報提供                     |  |    |
|                               | 31 ネットワーク事業の推進                           |  |    |
|                               | 32 読書相談体制の整備                             |  |    |
|                               | 10) 学校の図書館（図書室）の情報提供の充実                  |  | A  |
|                               | 33 学齢に応じた情報提供                            |  |    |
|                               | 11) 学校を通じた子どもの読書活動に対する保護者への理解の深化         |  | A  |
|                               | 34 学校を通じた子どもの読書活動啓発事業                    |  |    |
|                               | 12) 子どもの読書への関心を高める取組                     |  | B  |
|                               | 35 子ども同士で本を薦め合う 【新規】                     |  |    |
| 目標2 子どもの「読む力」を育み、伸ばす          |                                          |  | 評価 |
| (3) 学校教育における読書活動の推進           |                                          |  |    |
|                               | 13) 読書活動を取り込んだ学校教育の推進                    |  | B  |
|                               | 36 学校の図書館（図書室）の活用のための整備                  |  |    |
|                               | 37 情報リテラシー※7教育                           |  |    |
|                               | 14) 読書指導に関する校内協力体制の確立と職員研修の充実            |  | B  |
|                               | 38 学校における職員体制づくり                         |  |    |
|                               | 15) 学校と地域の図書館・図書室との連携事業の推進               |  | B  |
|                               | 39 学級文庫や教材として活用する資料充実のための地域の図書館・図書室の活用   |  |    |
|                               | 40 子どもの読書活動きっかけ体験事業                      |  |    |
|                               | 41 地域の図書館・図書室と学校の図書館（図書室）の連携体制の整備        |  |    |
|                               | 42 ブックリストの活用                             |  |    |



※6 高校生期：この計画では、中学校を卒業し、おおむね18歳までの子どものことを指します。

※7 情報リテラシー：携帯電話やスマートフォン、パソコン等の情報メディアから得られる大量の情報の中から、自分が必要とする情報を取捨選択し、調べものをしたり、意思決定したり、表現したりするなど適切に情報を使いこなすための知識や能力のことです。

|                                                                                         |  |    |
|-----------------------------------------------------------------------------------------|--|----|
| (4) 魅力ある利用しやすい学校の図書館(図書室)の整備・充実                                                         |  |    |
| 16) 学校の図書館(図書室)の環境整備の充実                                                                 |  |    |
| 43 学校の図書館(図書室)の環境整備                                                                     |  | B  |
| 17) 学校の図書館(図書室)の図書資料の充実                                                                 |  |    |
| ① 司書教諭                      ② 学校図書館専門員※8<br>③ 図書ボランティア※9      ④ 協力・連携と研修機会等の充実          |  |    |
| 44 学校の図書館(図書室)の図書資料整備                                                                   |  | B  |
| 18) 学校の図書館(図書室)運営に関わる人の充実                                                               |  |    |
| 45 司書教諭の校内体制の整備                                                                         |  | B  |
| 46 読書指導のための研修                                                                           |  |    |
| 47 司書教諭等による情報交換                                                                         |  |    |
| 48 学校の図書館(図書室)に関わる人の体制の整備                                                               |  |    |
| 49 図書ボランティアの受入・育成                                                                       |  |    |
| 目標3 地域のちからをつなげる                                                                         |  | 評価 |
| (5) 読書活動推進の拠点として利用者に身近な地域の図書館・図書室づくりとネットワーク化の推進                                         |  |    |
| 19) 図書資料の充実                                                                             |  |    |
| 50 子どもの読書活動のための資料整備                                                                     |  | B  |
| 20) 快適な地域の図書館・図書室の環境づくりの推進                                                              |  |    |
| 51 地域の図書館・図書室の環境づくり 【拡充】                                                                |  | A  |
| 21) 地域の図書館・図書室の情報発信機能の充実                                                                |  |    |
| 52 地域の図書館・図書室PR事業                                                                       |  | B  |
| 22) レファレンス※10サービスの充実                                                                    |  |    |
| ① 乳幼児の子どもとその保護者へのサービス<br>② 小学生期の子どもへのサービス<br>③ 中学生期・高校生期の子どもへのサービス<br>④ 支援を要する子どもへのサービス |  |    |
| 53 子どものためのレファレンスサービス                                                                    |  | B  |
| 23) すべての子どもが利用しやすい地域の図書館・図書室サービスの充実                                                     |  |    |
| 54 地域の図書館・図書室ネットワーク事業                                                                   |  | B  |
| 55 様々な子どもへの児童サービス※11                                                                    |  |    |
| 56 おはなし会の開催                                                                             |  |    |
| 57 乳幼児とその保護者に向けた図書館サービス                                                                 |  |    |
| 58 地域の図書館・図書室の利用促進事業※12                                                                 |  |    |
| 59 ヤングアダルトサービス事業※13                                                                     |  |    |

※8 学校図書館専門員：本市の市立小・中学校において、司書又は司書補、司書教諭の資格をもち、専門的な知識を生かして、学校の司書教諭や図書ボランティアと協力しあいながら、学校図書館運営や子どもの読書活動を推進・支援する職員のことです。学校図書館法に規定する学校司書に相当し、本市では2010年(平成22年)4月から配置を進めています。

※9 図書ボランティア：各学校図書館で子どもの読書活動を推進・支援するボランティアのことです。2017年度(平成29年度)に学校図書館支援ボランティアから名称を変更しました。

※10 レファレンスサービス：図書館の利用者に対して、依頼された資料や必要な情報を提供することです。

※11 児童サービス：図書館が提供するサービスで、主に乳幼児から小学生・中学生を対象とするものです。本の紹介や本選びの支援、読み聞かせやブックトーク※12、おはなし会の開催等が含まれます。

※12 ブックトーク：主に教師や図書館員等が、子どもや図書館の利用者など複数の聞き手に対して、テーマを決めて、何冊かの本を紹介することです。学校図書館では読書指導の一環として行われることもあります。日本では1冊の本を紹介する場合でも「ブックトーク」と呼ばれています。

※13 ヤングアダルトサービス：アメリカの図書館界で使われ始めた図書館用語で、中高生などの年齢層を子ども扱いするのではなく、一定の責任と権利を持った「若い大人」(Young Adult: YA)として扱い、図書館としてのサービスを提供しようという姿勢を示すものです。わが国でも公共図書館や出版業界等では定着し、広く使用されています。

|                                          |                               |  |   |
|------------------------------------------|-------------------------------|--|---|
|                                          | 24) 保護者や保育・教育関係者への働きかけ        |  | B |
|                                          | 60 年齢・成長にあわせた本の紹介             |  |   |
|                                          | 61 子どもの読書活動への理解の深化のための事業      |  |   |
|                                          | 62 保育・教育現場への研修等               |  |   |
|                                          | 25) ボランティアの養成と相互連携機会の充実       |  |   |
|                                          | 63 ボランティア養成・意識啓発事業            |  | B |
|                                          | 64 ボランティアとの相互連携               |  |   |
|                                          | 26) 学校や子どもに関わる施設・団体等との連携事業の推進 |  |   |
|                                          | 65 学校の図書館（図書室）への支援事業          |  | B |
|                                          | 66 資料充実への支援事業                 |  |   |
|                                          | 67 研修、相談機会の提供                 |  |   |
|                                          | 68 団体による図書館利用や相談              |  |   |
|                                          | 69 学校の図書館（図書室）関係者との連携         |  |   |
|                                          | 27) 地域の図書館・図書室内の体制の充実         |  |   |
|                                          | 70 地域の図書館・図書室の体制の充実           |  | B |
| (6) 地域の子どもに関わる施設・団体等における読書環境整備と協力連携体制の推進 |                               |  |   |
| 28) 様々な施設や場所における子どもの読書活動の推進              |                               |  |   |
| ① 幼稚園、保育所等                               |                               |  |   |

※14 児童クラブ：保護者が就労等により放課後不在となる家庭等の児童に居場所、生活の場を提供する事業です。本市では1小学校区に1施設以上、学校内や児童館、専用施設で実施しています。

※15 地域子どもの家：地域の子どもの身近な場所で自由にのびのび遊べるよう、遊具や図書コーナー等が設置された本市の施設のことです。市内に17か所あります。

※16 青少年会館：青少年に活動の場を提供し、健全な育成を図るために設置され、地域に根ざした青少年活動・青少年育成活動の拠点として利用されている本市の施設のことです。

| 目標4 みんなで子どもの「読書」を見守る                    |  | 評価 |
|-----------------------------------------|--|----|
| (8) 読書に親しむための人づくり                       |  |    |
| 35) 子どもの読書活動に対する意識の高揚                   |  | B  |
| 84 子どもの読書活動に関する資料提供事業                   |  |    |
| 85 子どもの読書活動に関する事業                       |  |    |
| 36) 子どもの読書活動に関する情報提供の充実                 |  | B  |
| 86 子どもの読書活動推進に関する講演等啓発事業                |  |    |
| 87 関連施設による情報提供                          |  |    |
| 88 子どもの読書活動に関する情報発信事業 【拡充】              |  |    |
| 37) 各世代に対する読書活動支援のための機会の充実              |  | B  |
| 89 読書活動に関する講演会等の事業                      |  |    |
| 90 各世代に向けた読書情報提供                        |  |    |
| 91 地域の図書館・図書室における読書に関する情報提供             |  |    |
| 92 読書案内・レファレンスサービス事業                    |  |    |
| (9) 計画の効果的な推進体制づくり                      |  |    |
| 38) 「藤沢市子ども読書活動推進会議※ <sup>17</sup> 」の開催 |  | B  |
| 93 計画推進事業                               |  |    |



※<sup>17</sup> 藤沢市子ども読書活動推進会議：本市における子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ効果的な推進を図るため、本市が設置した会議です。

### 3 取組の評価と、アンケート調査等から見えてきた課題

#### 目標1 すべての子どもを「読書」の楽しさへ誘う

子どもの言葉の発達や想像力、感性を豊かにする上で、読書を「楽しむ」ことはとても大切です。また、論理的に考え、自らの課題を探究していく力を身に付けるためにも読書は基礎となるものです。自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得することで、探究心を養い、読解力を身に付けていきます。

事業評価において、「学校の図書館（図書室）の情報提供の充実」「学校を通じた子どもの読書活動に対する保護者への理解の深化」の2事業については目標以上に推進でき、また、残りの33事業では目標どおりに実施できました。

アンケート調査によると、本を読むことについて、「好き」「どちらかというと好き」を合わせた好感度は、「保護者」が84.7%、「小学2年生」が93.6%、「小学5年生」が86.5%、「中学2年生」が79.7%、「16～17歳」が82.3%となっており、先月読んだ本の冊数について、「小学2年生」「小学5年生」「中学2年生」では1冊以上読んでいる割合が非常に高くなっています。一方、「0冊」の割合は、「16～17歳」（39.2%）が最も高く、次いで「保護者」（26.8%）となりました。

本を読むことへの好感度は高いものの、この好感度が必ずしも実際の読書習慣や読書量に結びついていないことが課題として挙げられます。

また、「保護者」が本を好きになったきっかけは、前回調査と同様、「興味を持てたり、感動したりした本に出会ったため」が最も高く、自分の子どもへの読み聞かせは9割以上が実施しており、そのうち74.2%が読み聞かせの効果を実感していました。自由記述欄に寄せられたブックスタートの感想としては、「絵本を読んだり、読み聞かせをしたりするきっかけになる」「本と触れ合う良い機会になった」「図書館を知るきっかけになった」等、本の世界や図書館を知るきっかけになったという声が多く挙がっており、実施時期・方法、配布絵本についても様々な意見がありました。

そのため、子どもが本を好きになるためには「本との出会い」や「家庭での働きかけ」が重要であることがわかります。

生涯にわたって読書に親しみ、自己の能力を磨き、学ぶ習慣を形成するためには、乳幼児期から発達段階に応じた読書活動が行われることが重要であり、それぞれの発達段階に応じた取組を進める必要があります。

さらに、電子書籍については、「よく読む」「すこし読む」を合わせた割合が、前回調査に比べて全ての層で増加してきています。また、本の情報の入手方法についても、「インターネット」の割合が「保護者」（55.0%）「中学2年生」（68.8%）「16～17歳」（72.8%）と、全ての層で大きく増加していました。しかし、本を読みたいときには電子書籍よりも本を選ぶ人が大半であることから、依然として紙の本を好む人が多いことがわかります。そのため、利用者が本と電子書籍、どちらの形態も気軽に手に取れる機会を増やしていくことが望まれます。

## 目標2 子どもの「読む力」を育み、伸ばす

子どもが生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成していく上で、学校はかけがえのない大きな役割を担っています。学校においては、全ての子どもが自由に読書を楽しみ、読書の幅を広げていくことができるように適切な支援を行うとともに、そのための環境を整備することが大切です。その際、子どもの読書の量を増やすことのみならず、読書の質をも高めることが求められます。

事業評価において、「学校と地域の図書館・図書室との連携事業の推進」については目標以上に推進でき、また、残りの13事業では目標どおりに実施できました。

アンケート調査によると、「朝の読書<sup>※18</sup>」の感想については、全ての層で「おもしろい、楽しい」の割合が最も高くなりました。次いで「ためになる」、「時間が短い」と答えた割合も全体的に高くなりました。また、子どもの読書活動推進のために家庭・学校・地域で必要なことについての自由記述欄には、「朝の読書のおかげで読書の習慣がついた」、「図書の種類を増やしてほしい」等の意見がありました。

学校生活の中で、読書の楽しさや、面白さを知ることは大切であることから、子どもの読書習慣の定着を図り、生涯にわたる読書活動へつなげるため、「朝の読書」を始め学校の教育活動全体を通して多様な読書指導を展開していくことが必要です。

アンケート調査によると、本を読む場所について、「学校の図書館（図書室）」は、「小学2年生」（75.3%）と「小学5年生」（58.9%）となっており、比較的高くなっています。また、「中学2年生」では「教室」（79.7%）も高くなっています。

また、先月1か月の間に学校の図書館（図書室）に1回以上行った割合は、「小学2年生」では95.1%、「小学5年生」では78.6%、「中学2年生」では45.2%、「16～17歳」では45.8%となっています。一方、学校の図書館（図書室）について、蔵書の充実に関する要望や開館時間の延長等が求められています。



※18 朝の読書：「朝の読書」とは朝の時間帯に行う読書のことで、各学校の実情に応じて実施しているため取組が異なります。

### 目標3 地域のちからをつなげる

図書館は、子どもにとって、豊富な資料の中から自由に読みたい本を選び、読書に親しむことができる身近な施設であるとともに、学習の場、くつろぎの空間を提供しています。

地域の図書館・図書室は、子どもの読書活動を推進する拠点となる施設であり、子どもにとって豊富な蔵書の中から読みたい本を自由に選択し、読書の楽しみを知ることができる場所であるとともに、保護者にとっても、子どもに薦めたい本や、子どもの読書について司書に相談することができる場所です。

事業評価において、「快適な地域の図書館・図書室の環境づくりの推進」については目標以上に推進でき、また、残りの33事業では目標どおりに実施できました。

アンケート調査によると、本を読む場所について、「小学2年生」「小学5年生」では3割程度が「地域の図書館・図書室」を挙げていますが、「中学2年生」、「16～17歳」と年齢が上がるごとに割合が減少しています。また、先月1か月の間で地域の図書館・図書室に行った回数については、「保護者」では「0回」が最も高い割合を占めるものの、半数以上が1回以上、地域の図書館・図書室に行っていることがわかりました。「小学2年生」「小学5年生」「中学2年生」「16～17歳」では、学年が上がるに従い「0回」の割合が高まり、「中学2年生」では65.6%、「16～17歳」では70.3%を占めています。一方、子どもの読書活動推進のために、保護者より地域の図書館・図書室について、夜間利用や「読書通帳」のような目に見えて成果がわかるポイントシステム導入の実施やアクセス性の向上について要望が挙げられています。また、学校を休んでいる児童生徒の図書館へのボランティア受入れに関して良いアイデアであるとの意見も挙がりました。

### 目標4 みんなで子どもの「読書」を見守る

家庭、地域、学校、専門・関係機関による子ども読書活動を推進していくためには、読書活動の楽しさや必要性、重要性について理解を広めていくことが重要です。

事業評価において、「子どもの読書活動に対する意識の高揚」「子どもの読書活動に関する情報提供の充実」等、10事業すべてで目標どおりに実施できました。

アンケート調査によると、「おはなし会」への参加状況については、「小学2年生」(36.6%)の方が「小学5年生」(24.6%)よりも参加経験率が高いものの、前回調査と同様、「行ったことがない」が大半を占めています。

子どもの読書活動推進のためには、地域では「読書の楽しみ方講座」、「英語での絵本の読み聞かせの実施」等、イベントによる読書に関わる機会の充実や、資料の充実、利便性の向上を求める意見や、本に触れられる環境・機会の拡充についての意見が挙げられています。さらに、様々な背景を持つすべての子どもたちのためにその子のペースや特性に合わせて、本と出会う機会を作ること求められます。

また、子どもに直接本の楽しさを伝えるボランティアの役割は大きく、ボランティアとの協働や、ボランティアの活動支援の取組を一層進めていくことも重要です。